～医療ビッグデータを活用した初の国際協力～
日タイ包括研究協定（MOU）調印式　開催報告

去る 6 月 18 日（月）、国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（略称：NCGM）国際医療協力局のグローバルヘルス政策研究センター（iGHP）は日タイ共同研究に関する包括研究協定（MOU）調印式を行いました。この MOU は、医療ビッグデータを活用した本邦初の国際協力を実施するためのものです。

2016 年、日本とタイ両国政府の協力のもと、国際協力機構（JICA）が、タイにおいて技術協力プロジェクト「グローバルヘルスとユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）のためのパートナーシッププロジェクト」を開始しました。翌 2017 年には、このプロジェクトを基盤として、エビデンスに基づく政策形成を行うために、タイの医療ビッグデータを活用した日タイ共同研究チームが発足しました。NCGM 国際医療協力局 iGHP は、日本の主要研究機関として、タイの国民医療保障機構（National Health Security Office: NHSO）と共に、研究促進基盤の整備や若手研究者の能力強化などに取り組んできました。

そしてこの度、包括研究の本格的な始動にあたり、タイ保健省高官、JICA 関係者同席のもと、NCGM と NHSO の間で MOU を締結いたしました。タイ保健省大臣アドバイザーの Dr. スウィット・ウィブンポンプラサートからは、「渋谷教授(iGHP センター長)を通じて長期に渡るタイと日本の信頼関係のもと、本共同研究の MOU 締結に至った。両国のビックデーターを活用した新しい知見の創出により、我々の将来のヘルスシステムへの貢献するものであり、確実に成果を生み出せるものと信じている。」との発言がありました。NCGM の國土典宏理事長からは「本研究は、タイの大規模な人口をカバーしたデータの活用という特徴があるが、日本のビックデータの研究などのノウハウを活かして、より良い医療へ貢献していきたい。」と述べました。

今回 MOU を締結した包括研究のテーマは、『糖尿病』 『喘息』、そして 『保健財政』の 3 つです。NCGM 国際医療協力局 iGHP は、主に糖尿病と喘息の患者さんに関するビッグデータの分析と研究を担います。

タイ国民の約 4,700 万人という大規模な医療ビッグデータの政策研究活用は世界的にも新しく、iGHP グローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長の宮田裕章（慶応義塾大学教授）をはじめ、東京大学のチームも含めた日本の医療ビッグデ

ータ研究の先駆者たちが、中進国における同分野の発展のために貢献して参ります。国際保健政策における国家レベルのビッグデータの活用はわが国では初めてであり、世界でも先駆的な試みです。

なお、当日の様子は下記メディアに取り上げられました。

- エムスリー：https://sp.m3.com/news/kisokoza/610160（会員のみアクセス可能）
- Med IT Tech：https://medit.tech/ighp-ncgm-thai-bigdata/

PRESS RELEASE

2018 年 6 月 18 日
National Center for Global Health and Medicine
国立研究開発法人　国立国際医療研究センター
国際医療協力局　グローバルヘルス政策研究センター

医療ビッグデータを活用した初の国際協力
～日タイ包括研究協定（MoU）の下で実施される研究概要～

タイ王国は、2002年にUniversal Coverage Scheme（UCスキーム）を開始し、全ての人が、適切な保健医療サービスを支払い可能な費用で受けられる環境が実現しています。国民医療保障機構（National Health Security Office: NHSO）は、人口約75%にあたるUCスキーム加入者、**約4,700万人の医療データ**を所有しているものの、人材やスキルの不足などにより、UCスキームの運営や医療政策提言のためにこのデータが十分活用されてきませんでした。

このたび、国立研究開発法人国立国際医療研究センター(NCGM)国際医療協力局のグローバルヘルス政策研究センター（iGHP）は、NHSOと共に、研究促進基盤の整備や若手研究者の能力強化などに取り組むことになりました。タイの医療政策上重要な３つのテーマに関し、**医療ビッグデータを活用した初の国際協力**となるMoUを締結し、日タイ共同で研究をすることで、UCスキームのより一層効果的かつ効率的な運営に役立てます。

一つの例としては、膨大なバンコクの個人レベルの外来医療データの分析を通して、救急**医療へのアクセスを確保し、かつ医療施設への予算配分を効率的に行う方法を提案します。**医療費と関連する要因分析も行うことで、適切な診療報酬についても提案します。こうした手法は、今後の日本の医療政策にも大きな示唆を与えるものです。

iGHPグローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長
宮田裕章（慶應義塾大学教授）コメント

「タイでは、保健医療データは全て同一のIDで管理されており、様々なデータソースを紐付けて、分析することが可能です。これにより**多くの先進国では困難な、疾病経過の把握と分析が国家単位で可能**となっています。日タイの医療ビッグデータを活用した共同研究は世界でも初の試みであり、**日本や他の国々における次世代の保健医療システムを考える上で、極めて高い意義**があります。」

★共同研究の内容に関するお問い合わせ先
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）
国際医療協力局　グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）
藤田　卓仙（たかのり）、李　祥任（り　さんいん）　TEL：03-6228-0569（直通）